

産地生産基盤パワーアップ事業 取組事例

秋田県

成果目標	市町村名	地区名	品目名	掲載番号
生産コスト 10%以上削減	小坂町	七滝地区	水稻	1
	潟上市	上出戸	水稻、大豆	2
販売額 10%以上増加	横手市		りんご、ぶどう、トマト	3
	にかほ市		アスパラガス	4
	能代市	鶴形地区	ねぎ	5
	能代市	轟地区	ねぎ	6
	能代市	檜山地区	ねぎ	7
	男鹿市	五里合基盤整備地区	水稻	8
	秋田市	雄和相川地区	水稻、大豆	9
	秋田市	雄和芝野地区	大豆	10
	秋田市	豊岩前郷地区	大豆	11
	仙北市	生保内地区	大豆	12
	大潟村		たまねぎ	13
	美郷町		大豆	14

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:鹿角地域農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

取組の概要 : 省力化栽培技術の拡大及びライスセンターの整備を行い、所得の向上と米生産の効率化の推進を図る

対象品目 : 水稻 (産地面積: 20ha)
 主な取組主体: 農事組合法人とわだ七滝ファーム
 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減
 導入施設等 : 整備事業
 乾燥調製施設273㎡、乾燥機3台 他

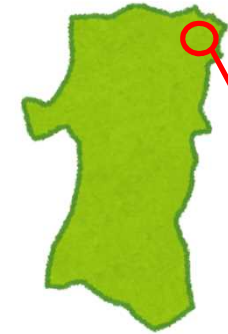
ポイント

- ① 直播栽培等の省力栽培技術の導入
- ② 個別対応であった乾燥調製についてライスセンターを整備

推進体制

地域の関係者(小坂町、JAかづの、秋田県鹿角地域振興局)が事業を推進

地区の概要



秋田県
小坂町
七滝地区

産地の現状と目標

〈現状: H28年度〉

乾燥調制作業は法人構成員が所有する個別の乾燥機で対応
 ・作付面積 18ha
 ・生産コスト額 92,630円/10a

〈目標: R1年度〉

省力栽培方法の導入、ライスセンターを整備し生産コストを削減
 ・作付面積 20ha
 ・生産コスト額 89,930円/10a

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 圃場整備事業をきっかけに経営体に農地集積を推進

取組成果

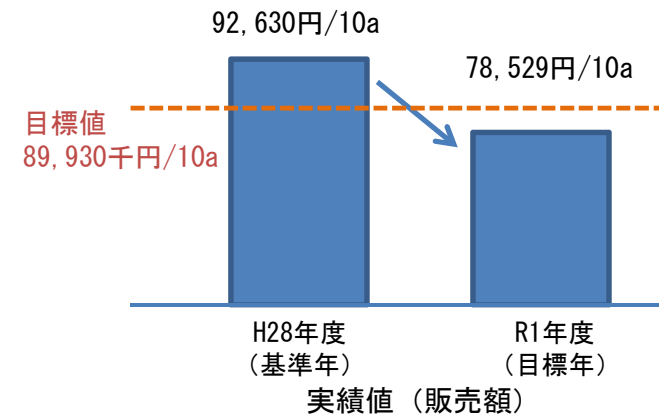
【事業実施による直接効果】

- ライスセンター導入による省力化、低コスト化、品質の平準化

【事業実施による間接効果】

- 担い手への面積集積

生産コストが
15%減少
(達成率120%)



産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(30年度:計画作成主体:潟上市天王地域農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

対象品目 : 水稻・大豆 (産地面積: 44.2ha)
 主な取組主体 : 農事組合法人ファーム北野
 農業者16名
 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減
 水稻基準 (H29年度 90,113円/10a)
 水稻目標 (R2年度 80,262円/10a)
 大豆基準 (H29年度 37,105円/10a)
 大豆目標 (R2年度 31,796円/10a)
 導入施設等 : 整備事業
 乾燥調製施設 200㎡
 (処理量 水稻:250t、大豆:32t)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】
 農家の高齢化が進む中、地域の受け皿となるべく集落型の法人として農事組合法人ファーム北野が設立された。
 法人設立当初から、JAカントリーエレベーターを活用しており、取扱い品種である「あきたこまち」と「ひとめぼれ」を主力に生産してきたが、昨今の主食用米の需要低下を鑑み、多収が見込まれる業務用米等の生産にシフトするためにライスセンターを整備するとともに、機械・施設の共同利用等により生産コスト削減、作業の効率化を図る。

【産地の体質強化に向けた方策】
 ①法人への農地集積による作業の効率化を図る
 ②ライスセンターを整備し、水稻・大豆生産作業の効率化を図る
 ③需要に応じた米生産の推進のため、JAと連携を図りながら業務用米等の生産拡大を図る

取組成果

【事業実施による直接効果】
 ○ ライスセンター(共同利用施設)設立によるコスト削減、省力化
 ○ ライスセンターによる水稻、大豆の均質化
 【事業実施による間接効果】
 ○ 水稻・大豆作業の効率化による、ねぎの生産拡大、地元雇用の確保

【水稻】生産コストが
30.2%減少
 (達成率276%)

【大豆】生産コストが
25.4%減少
 (達成率177%)

産地体制

地域の関係者(潟上市、JA秋田なまはげ、秋田県秋田地域振興局)が連携を図り事業を推進

地域における独自の取組

〈主な取組〉

園芸作物(ねぎ)の出荷調整の拠点を独自に整備した。これに伴う生産体制の構築及び面積拡大のために必要な機械等の導入支援

〈市町村単独事業〉

市単独事業「潟上市農業生産力向上事業」による園芸作物に関連する機械等の導入



～水稻の生産コスト～

目標値 80,262円/10a
 (10.9%削減)

90,113円/10a

H29年度
(基準年)

62,918円/10a

R2年度
(目標年)

～大豆の生産コスト～

目標値 31,796円/10a
 (14.3%削減)

37,105円/10a

H29年度
(基準年)

27,696円/10a

R2年度
(目標年)

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28～29年度:横手市農業再生協議会)(秋田県)

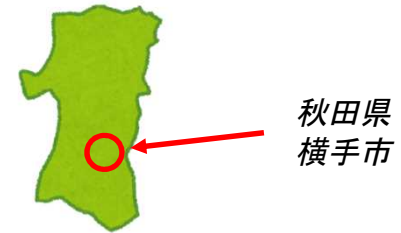
取組の概要

取組の概要 : 選果施設導入及びジュース加工場整備
 対象品目 : りんご、ぶどう、トマト
 (産地面積: 585ha、88.5ha、12.2ha)
 主な取組主体 : JA秋田ふるさと
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加(10a当たり)
 導入施設等 : 整備事業(選果機1基、選別機測定部1基、ジュース製造整備一式、充填包装設備一式、加工場建築・機械設備・電気設備一式)

ポイント

○集出荷施設の機能強化により、果実品質の向上と、高品質製品の有利販売による単価向上を図る。
 ○ジュース加工場能力増強による全体の処理量増加と高付加価値化による生産者所得の向上を図る。

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状〉

りんご 584.3ha(4,410t)
 ぶどう 88.5ha(552t)
 トマト 10.3ha(574t)
 販売額 りんご・ぶどう 143千円/10a
 トマト 1,667千円/10a



〈目標(H30)〉

りんご 585.0ha(5,673t)
 ぶどう 88.5ha(686t)
 トマト 12.2ha(792t)
 販売額 りんご・ぶどう 185千円/10a
 トマト 1,973千円/10a



推進体制

JA秋田ふるすとは、有利販売により販売単価の向上に努め、横手市農業再生協議会(秋田県平鹿地域振興局、横手市など)は、品質の向上と、単位当たり生産量の増加に向けた栽培指導を行う。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・内部センサーの導入による「品質を確実に保証できるりんご」販売の実現
- ・首都圏等へのジュース販売(高付加価値化)による生産者所得の向上

〈県単独事業〉

「活気あふれる果樹産地育成事業」により、ぶどうのハウス強化と灌水設備の導入助成を実施

取組成果

【事業実施による直接効果】

○りんご・ぶどう・トマトの下位等級の加工買取による生産者所得の向上

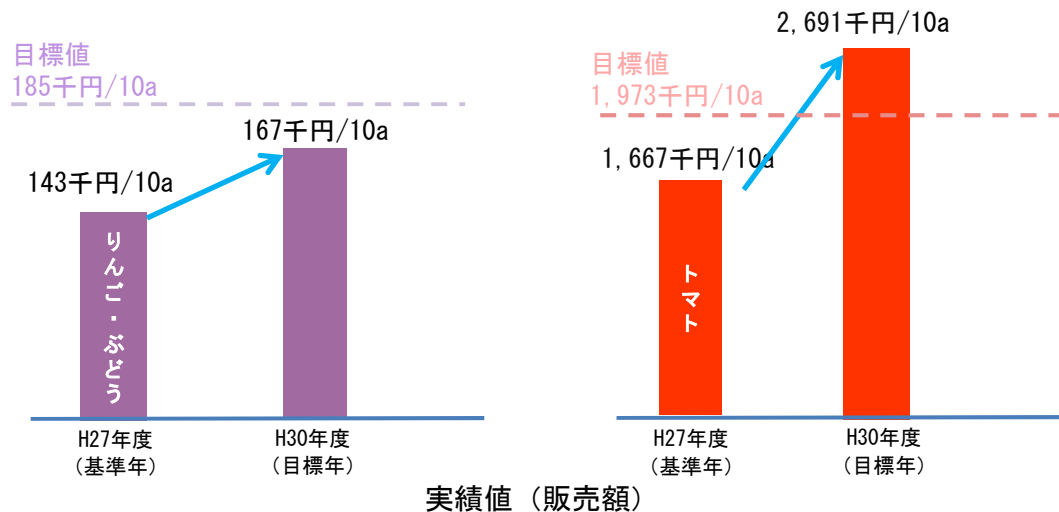
【事業実施による間接効果】

- 生産者の廃棄コストの圧縮
- りんご・ぶどうの販売シーズン期間以外での加工品販売による首都圏等での産地認知の向上
- 加工品(ジュース)がマスコミ等から取り上げられることによる産地イメージの向上



りんご・ぶどうの販売額
17%増加
(達成率56%)

トマトの販売額
61%増加
(達成率334%)



産地パワーアップ事業の取組事例(R1~2年度:計画作成主体:にかほ市農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

取組の概要 : アスパラガス産地化に向けた
高品質・安定生産の取組
対象品目 : アスパラガス (R4栽培面積: 0.8ha)
主な取組主体 : 農事組合法人小出ファーム
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
(総販売額)
導入機械等 : 生産支援事業
パイプハウス資材
給水設備・井戸ポンプ設備・
灌水設備: 16棟分、
アスパラ選別機: 2台

推進体制

地域の関係者(にかほ市、JA秋田しんせい、秋田県由利地域振興局、にかほ市土地改良区)が一体となり、事業を推進

構成	役割
取組主体	: 施設機械の導入による半促成栽培
にかほ市	: 施設機械の導入支援
JA秋田しんせい	: 作物栽培、経営指導
由利地域振興局	: 作物栽培、経営指導
土地改良区	: 基盤整備

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 基盤整備事業、集落営農の法人化と併せての実施。

〈県・市町村単独事業〉

- 県事業(園芸メガ団地整備事業)を併用。

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

- 課題: 水稲依存の農業からの脱却
現状(H29): 水稲、大豆等2.8ha 農業者17名
総販売額1,253千円
- 取組方向: アスパラガスを取り入れた複合経営
半促成栽培による計画的な高品質安定生産の確立

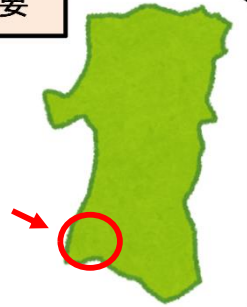
目標(R4): アスパラガス0.8ha 農業者17名 総販売額13,750千円

【産地の体質強化に向けた方策】

- ・選別機や防除機の導入による作業性の向上、省力化

地区の概要

秋田県
にかほ市



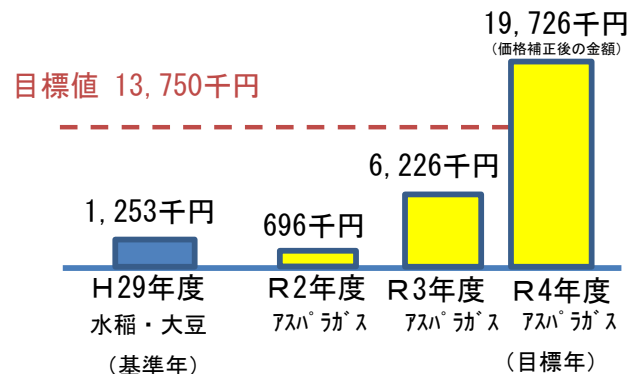
取組成果

【事業実施による直接効果】

- 高品質、安定生産体制が確立

【事業実施による間接効果】

- 県内屈指のアスパラガス産地となり地域農業が活性化
- 収穫期間が長い為、水稲に比べ長期間の雇用創出に繋がっている



アスパラガスの実績値
(販売額)

販売額が1,574%増加
(達成率148%)
(水稲、大豆等作付時対比)

○高単価の規格をまとまった量で出荷できた為、目標を大きく上回った。

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:能代市農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

取組の概要 : 野菜産地の形成の推進
 対象品目 : ねぎ (産地面積: 11.5ha)
 主な取組主体 : 農業者 1名
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加(総販売額)
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
 (収穫機 1台)

ポイント

- 水稲依存の営農体質からの脱却を目指した、水稲と園芸作物の複合経営の取組
- 高性能機械や育苗施設等の導入による省力・低コスト化の取組
- 県内トップシェアを誇るねぎの全国ブランド化に向けた高品質・安定供給の取組

地区の概要

秋田県
 能代市
 鶴形地区



産地の現状と目標

〈現状〉

対象品目: ねぎ 4.2ha
 取組主体: 1個人 常時雇用者数3名
 総販売額: 72,839千円
 ○ 地域をあげて、ねぎの生産拡大を推進

〈目標(H30)〉

対象品目: ねぎ 11.5ha
 取組主体: 1個人 常時雇用者数4名
 総販売額: 80,123千円
 ○ 収穫機等の高性能機械の導入による大規模経営により産地の販売額を増加

推進体制

地域の関係者(能代市、JAあきた白神、秋田県山本地域振興局)がプロジェクトチームを組織し、事業を推進

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 高性能機械の導入支援

〈県・市町村単独事業〉

- 「未来にアタック農業夢プラン応援事業」により高性能機械の導入へ助成

取組成果

【事業実施による直接効果】

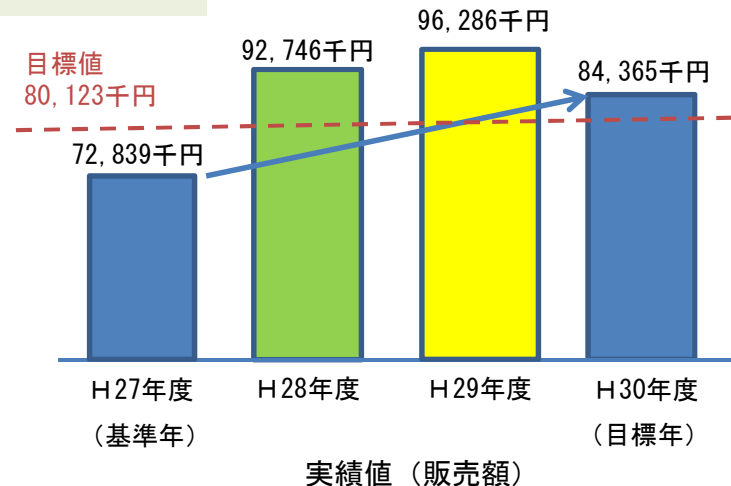
- 高性能機械の導入により作業性が向上し、作付面積の増加が図られ、販売額の増加に繋がった。
- 管理作業の適期実施が可能となり、品質の向上が図られた。

【事業実施による間接効果】

- 大規模経営により雇用が創出され、地域全体の農業所得の向上が図られた。
- 地域で高性能機械の導入が進み、ねぎの作付面積の増加、品質の向上に繋がった。



**販売額が
 16%増加
 (達成率158%)**



産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(H30年度:計画作成主体:能代市農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

取組の概要 : 露地野菜(ねぎ)産地の形成
 対象品目 : ねぎ (R3栽培面積: 6.1ha)
 主な取組主体 : 農事組合法人 轟ネオファーム
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 導入機械 : 生産支援事業
 トラクター、ソイルミックス
 ストーンクラッシャー

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

河川沿いに位置するため下層土に礫が多く、深い耕土を必要とするねぎ栽培では管理作業の度に露出する礫の処理に時間を要し、作付面積の拡大やブロックローテーションの妨げとなっていた。

このため、土壌中の礫類破碎による生産環境改善に取組み、作業の省力化、ブロックローテーション可能な農地の確保、高品位安定生産を実現する。

【産地の体質強化に向けた方策】

ストーンクラッシャーを導入し礫類の除去作業を省力化することで、生産環境改善・省力・低コスト化を図り、ブロックローテーションによる持続可能な農業経営を可能とする。これにより、高品質安定生産体系を確立する

地区の概要

秋田県能代市
轟地区



推進体制

大規模園芸拠点等育成推進チームを設置し、事業内容や実施スケジュールを情報共有しながら、関係機関で役割分担

構成	役割
取組主体	施設機械の導入による大規模複合経営
JAあきた白神	営農指導、研修会の開催、販路拡大
能代市、藤里町	各種事業の手続き、栽培試験
県地域振興局	事業推進、関係機関との調整

取組成果

【事業実施による直接効果】

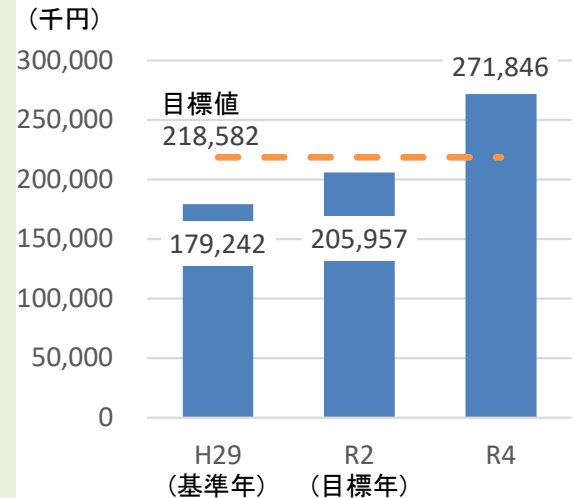
- ブロックローテーションによるねぎの高品質、安定生産と持続的な農業経営
- 年々、作付面積、販売金額が増加
- ねぎ大規模栽培のモデルとなっている

	H29	R4
作付面積(ha)	18.8	23
生産量(t)	524	695

【事業実施による間接効果】

- 若手の雇用就農者が、その後、独立してねぎ栽培を開始。これからの地域農業を担う若手の研修の場となっている
- 成功モデルとして能代市内にとどまらず県内のねぎ生産拡大に貢献

販売額52%増加
(達成率235%)



(※R2年、R4年の実績は価格補正後の金額)

地域における独自の取組

- 産地生産基盤パワーアップ事業と共に県単補助事業を併せて施設整備と機械導入を支援
- JA園芸メガ団地連絡協議会を開催し、ねぎを大規模に生産する経営体が関係機関も交えて情報共有

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(H29~30年度:計画作成主体:能代市農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

取組の概要 : 露地野菜(ねぎ)産地の形成
 対象品目 : ねぎ (R2栽培面積: 3.6ha)
 主な取組主体 : 個人農家 1経営体
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 導入施設等 : 整備事業 集出荷施設
 生産支援事業 パイプハウス

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

- 課題
 - ・ 水稻依存の営農体質からの脱却
- 取組方向
 - ・ 高性能機械や育苗施設等の導入による省力・低コスト生産
 - ・ ねぎ大規模生産モデルの確立

地区の概要

秋田県能代市
檜山地区



推進体制

大規模園芸拠点等育成推進チームを設置し、事業内容や実施スケジュールを情報共有しながら、関係機関で役割分担

構成	役割
取組主体	施設機械の導入による大規模複合経営
JAあきた白神	営農指導、研修会の開催、販路拡大
能代市、藤里町	各種事業の手続き、栽培試験
県地域振興局	事業推進、関係機関との調整

【産地の体質強化に向けた方策】

- ・ 集出荷施設やパイプハウスの導入により省力・低コスト化、高品質安定生産体系の確立

取組成果

【事業実施による直接効果】

- 取組3年目に販売額が飛躍的に増加し、その後も、年々、販売額が増加

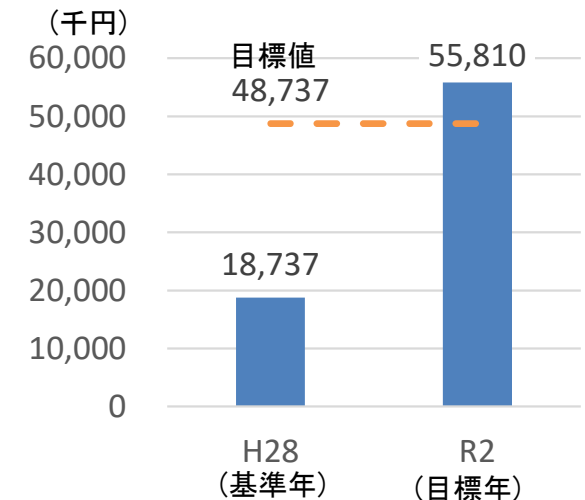
	H28	R2
作付面積(ha)	2.1	6.2
生産量(t)	58	155

【事業実施による間接効果】

- ねぎ大規模生産を新たに開始したことによる雇用の創出



販売額 298%増加
(達成率124%)



(※目標年の実績は価格補正後の金額)

地域における独自の取組

- 産地生産基盤パワーアップ事業と共に県単補助事業を併せて施設整備と機械導入を支援
- JA園芸メガ団地連絡協議会を開催し、ねぎを大規模に生産する経営体が関係機関も交えて情報共有

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28年度:計画作成主体:男鹿市農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

対象品目 : 水稻(産地面積 120ha)
 主な取組主体 : 農事組合法人いりあいファーム滝の頭(農業者13名)
 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減
 基準(H27年度) 103千円/10a
 目標(H30年度) 92千円/10a
 導入施設等 : 整備事業
 乾燥調製施設 517m²
 (処理量: 548 t(乾籾))

秋田県
男鹿市
五里合地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

H27年に、基盤整備事業に伴い農事組合法人 いりあいファーム滝の頭が設立され、同法人に農地が集積された。

法人経営の安定化のために、基盤整備地区の中心地にミニライスセンターを整備し、生産コスト削減を図るとともに、水稻作業の効率化により複合作物の生産拡大を図る。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①基盤整備事業によるほ場の大区画化
- ②法人への農地集積による作業の効率化
- ③基盤整備地区の中心地にミニライスセンターを整備し、水稻部門作業の効率化

産地体制

地域の関係者(男鹿市、JA秋田みなみ(現:JA秋田なまはげ)、秋田県秋田地域振興局)がプロジェクトチームを組織し、事業を推進

構成	役割
取組主体	施設整備による大規模複合経営
JA秋田みなみ(現:JA秋田なまはげ)	営農指導、研修会の開催、販路拡大、単収・品質向上、出荷規格のチェック
男鹿市	各種事業の手続き
県地域振興局	事業推進、関係機関との調整

地域における独自の取組

〈主な取組〉

園芸作物(ねぎ)の拠点整備に伴う機械・施設の導入支援

〈県単独事業〉

県単独事業「未来にアタック! 農業夢プラン応援事業」・「ネットワーク型園芸拠点整備事業」による機械・施設の導入支援

取組成果

【事業実施による直接効果】

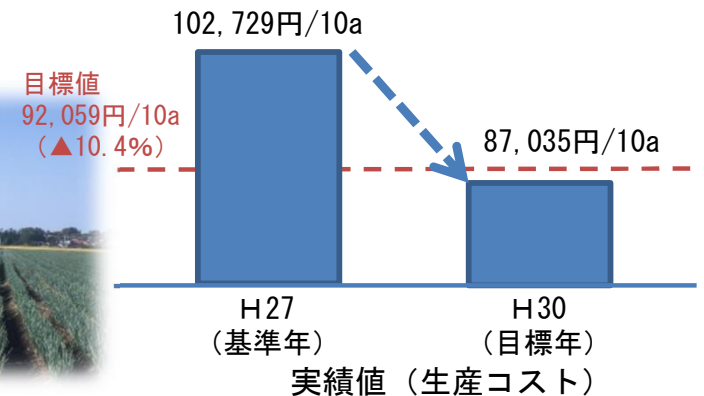
ライスセンター(共同利用施設)建設による低コスト、省力化

【事業実施による間接効果】

水稻作業の効率化による、ねぎの生産拡大、地元雇用の確保



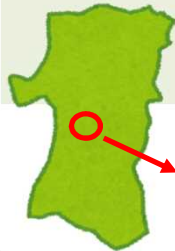
**生産コストが
15%減少
(達成率147%)**



産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成29年度:秋田市農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

対象品目 : 水稲・大豆(産地面積:110ha)
 主な取組主体 : 農事組合法人アグリあいかわ
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 導入施設等 : 整備事業(乾燥調製施設)
 生産支援事業(播種機・中耕ディスク・乗用管理機・コンバイン・大豆調製設備一式)



秋田県
秋田市
雄和相川地区



ポイント

【水稲】

- 担い手による機械・施設の共同利用と担い手への農地集積による品質の均一化とコスト削減を図る。
- 色彩選別機の導入により、品質向上、収益力の強化が見込まれる。

【大豆】

- 法人化による農地集積・団地化を図るとともに、大豆栽培面積拡大に必要な農業機械を導入し、適期栽培管理作業、単収の増加を図る。
- 乾燥調製設備の整備により、品質向上と販売額の向上を図り、収益力を強化する。

産地の現状と目標

〈現状 : H28年度〉

作付面積:水稲90ha、大豆9.4ha
 平均販売額(水稲):95,293円/10a
 平均販売額(大豆):10,805円/10a
 ○ 農業者の高齢化による離農が進む中、農地の受け手である担い手は個別に栽培管理や乾燥調制作業を実施しており、新たな農地の作業受託が難しい。

〈目標 : R1年度〉

作付面積:水稲90ha、大豆20ha
 平均販売額(水稲):106,538円/10a
 平均販売額(大豆):11,890円/10a
 ○ 機械・施設の共同利用及び担い手への農地集積により作業を効率化し規模拡大を図る。
 ○ 適期栽培管理に取り組むことで単収・品質向上等を図り、販売額を増加させる。

推進体制

地域の関係者(秋田市、JA新あきた、秋田県秋田地域振興局)が連携を図り事業を推進

地域における独自の取組

〈主な取組〉

高性能機械の導入支援

〈県・市町村単独事業〉

農業経営発展加速化支援事業(県単独事業)の活用

取組成果

【事業実施による直接効果】

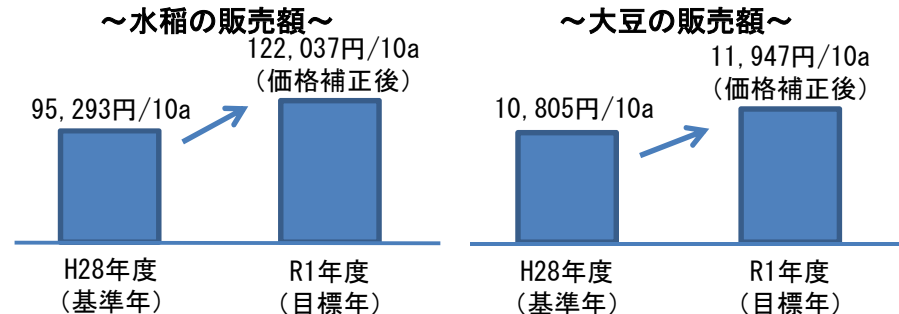
- リース支援による初期投資の節減効果
- ライスセンター(共同利用施設)設立による低コスト、省力化

【事業実施による間接効果】

- 担い手による作付面積の拡大
- ライスセンターによる水稲、大豆の均質化

【水稲】販売額が
28%増加
(達成率238%)

【大豆】販売額が
11%増加
(達成率105%)



産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成29年度:秋田市農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

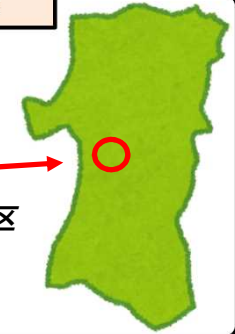
取組の概要 : 収益性の高い大豆団地の形成
 対象品目 : 大豆(産地面積:45ha)
 主な取組主体 : 芝野転作組合
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
 播種機1台

ポイント

- 分散する大豆ほ場の団地化と、ブロックローテーションの実施による、作業の効率化を図る。
- 新たな播種機の導入により、適期作業の実施や、単収増加、品質向上を図る。

地区の概要

秋田県
 秋田市
 雄和芝野地区



産地の現状と目標

〈現状: H28年度〉

作付面積:大豆45ha
 平均販売額:12,271円/10a
 ○ 規模拡大に必要な播種機が不足し適期作業に障害

〈目標: R1年度〉

作付面積:大豆45ha
 平均販売額:13,507円/10a
 ○ 播種、栽培管理の適期実施により、単収増加及び品質向上することで販売額を増加

推進体制

地域の関係者(秋田市、JA新あきた、秋田県秋田地域振興局)が連携し事業を推進

地域における独自の取組

〈主な取組〉

○高性能機械の導入支援

〈県・市町村単独事業〉

○「未来にアタック!農業夢プラン応援事業(県単独事業)」による機械・施設等の導入支援

取組成果

【事業実施による直接効果】

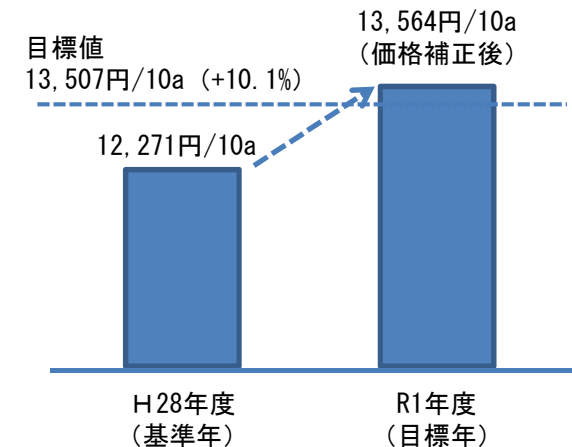
○ リース支援による初期投資の節減効果

【事業実施による間接効果】

- 地域の作業効率化により作付面積が拡大
- 適期作業による品質の向上



**販売額が
 10.5%増加
 (達成率105%)**



産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:秋田市農業再生協議会) (秋田県)

取組の概要

取組の概要 : 収益性の高い大豆団地の形成
 対象品目 : 大豆(産地面積:25ha)
 主な取組主体: 農事組合法人 白華の郷
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
 トラクター 1台

ポイント

- 土地利用集積により大豆団地を形成し、大豆栽培面積を拡大して、生産量を確保。
- 面積拡大に伴い、作業の効率化に必要なトラクターを導入し、適期に栽培管理作業を行うことで単収の増加を図り、産地における販売額10%の増加を実現

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状: H27年度〉
 作付面積: 24.2ha
 平均販売額: 6,513円/10a
 ○ 農業法人の大豆生産拡大を推進

〈目標: H30年度〉
 作付面積: 25.0ha
 平均販売額: 7,172円/10a
 ○ 収穫機等の高性能機械の導入による大規模経営により産地の販売額を増加

推進体制

地域の関係者(秋田市、新あきた農業協同組合、秋田県秋田地域振興局)は連携を図り、事業を推進

地域における独自の取組

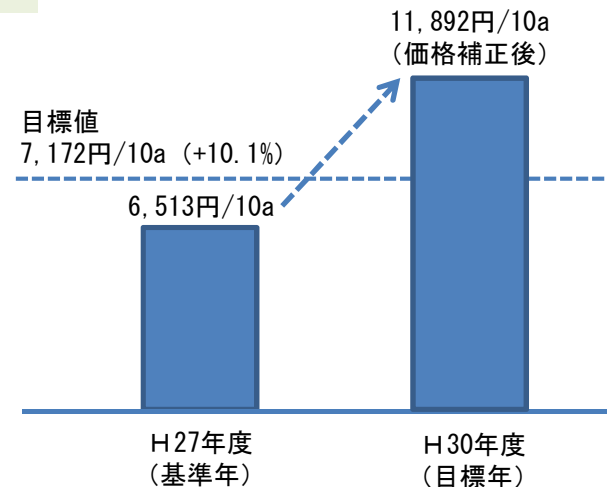
- 〈主な取組〉
- 高性能機械の導入支援
- 〈県単独事業〉
- 県単独事業「農業経営発展加速化支援事業」により、乗用管理機を導入

取組成果

- 【事業実施による直接効果】
- リース支援による初期投資の節減効果
 - 作業の効率化による面積の拡大
- 【事業実施による間接効果】
- 地域の担い手による作付面積の拡大および品質の向上
 - 面積集積による大豆団地の形成



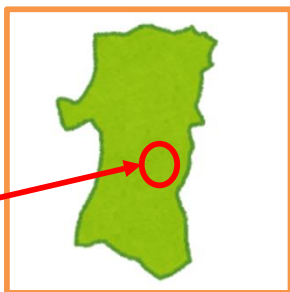
**販売額が
83%増加
(達成率816%)**



取組の概要

対象品目 : 水稻(産地面積88ha)
 主な取組主体 : 農事組合法人生保内南、
 常時従業者7名
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 基準(H28年度)103,408円/10a
 目標(R02年度)119,336円/10a
 導入施設等 : 整備事業(乾燥調製施設(乾燥設備、粃摺調製設備))

秋田県
 仙北市
 生保内地区



ポイント

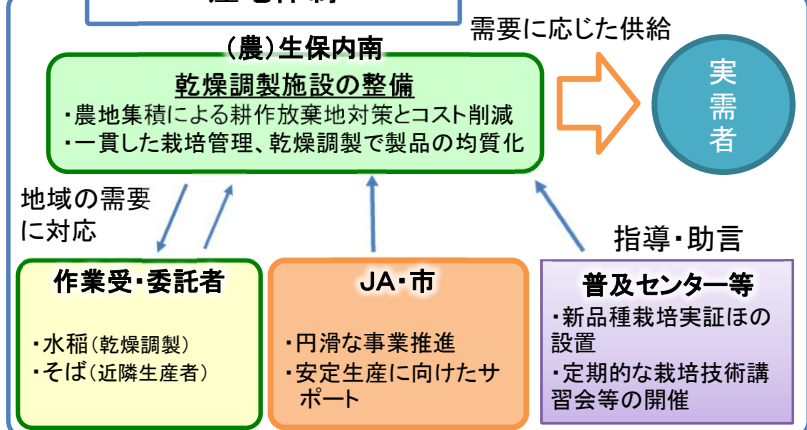
【産地の課題及び取組方向】

秋田県仙北市生保内地区は奥羽山脈の麓にあり、基幹作物である稲作において、立地の課題や高齢化、米価下落により離農が進みつつあり、農地の受け手となっている個人経営の担い手による作業受託では対応しきれない状態にあった。そこで、ほ場基盤整備を契機とした法人設立に併せて乾燥調製施設を整備し、低コスト・省力化を図りながら、農地の集約と米の高位均質化により販売拡大を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①ほ場基盤整備を契機に農業法人を設立し、農地を集積
- ②安全・安心、かつ高品質で均一化されたコメを販売するため乾燥調製施設を整備
- ③法人化で得られた労力と冷涼な気候を活かし、そば・アスパラガスの栽培に取り組む

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・ドローン等スマート農機の導入による水稻作業の効率化
- ・ふるさと納税返礼品への登録

取組成果

【事業実施による直接効果】

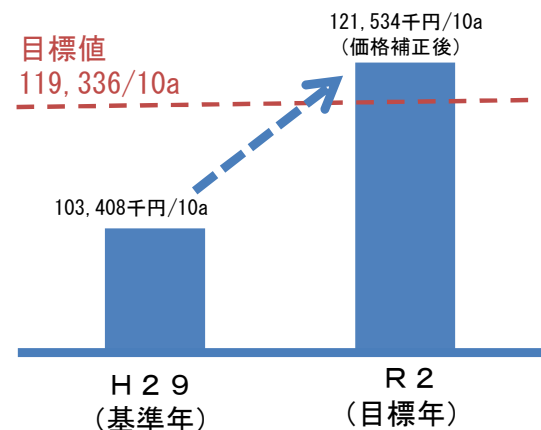
- ①乾燥調製施設の整備により、高品質・均一化
- ②累積攪拌式ビンの導入で、適期収穫が可能となり、品質が向上

【事業実施による間接効果】

- ①新法人による農地集約で作付面積が拡大し、生産量が増加
- ②一貫作業による高位均質化により、引き合いが強まり、販売額が増加



販売額が
17.5%増加
 (達成率**113.8%**)



産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(29年度:計画作成主体:大潟村地域農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

対象品目 : タマネギ
 主な取組主体 : 大潟村農業協同組合
 ほか農業者・農業法人8名
 成果目標 : 単位面積あたりの販売額
 10%以上の増加
 基準 (H29年度) 71.5千円/10a
 目標 (R2年度) 205千円/10a
 水田面積 : 11,755ha (タマネギ作付目標129.3ha)
 取組内容 : 整備事業(集出荷貯蔵施設、スチールコンテナ、選果設備)
 生産支援事業(移植、収穫、運搬に係る農業機械のリース)



秋田県大潟村

総事業費 : 837.4百万円
 うち国費 : 372.1百万円
 村費 : 16.3百万円
 その他 : 449.0百万円

産地体制

JA大潟村が集出荷貯蔵施設を整備するとともに、中心的な経営体においては、これまで小規模に行っていたタマネギ栽培を、ほ場での大規模栽培にすることで生産拡大を図る。

本計画は、県、大潟村、JA大潟村、地元農家が一体となって事業を推進する。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

地域の農業所得増大に向けた新規作物の導入を推進する。

- ①安定的な品質確保と農業者の乾燥設備等の投資削減と労力軽減のための共同利用施設の整備と長期的品質維持による有利販売。
- ②たまねぎの生産に必要な農業機械の貸し出し。
- ③栽培面積拡大のために必要な農業機械の導入

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

大潟村の農業は、米に大きく依存している。これまでは大規模圃場という条件を生かし、稲作を基幹とした大型機械化一貫体系が確立されており、生産性の高い農業を行ってきたが、消費者・実需者ニーズの多様化、流通形態の大きな変化の中で、今後米をはじめとする農畜産物の価格低下が予想される。

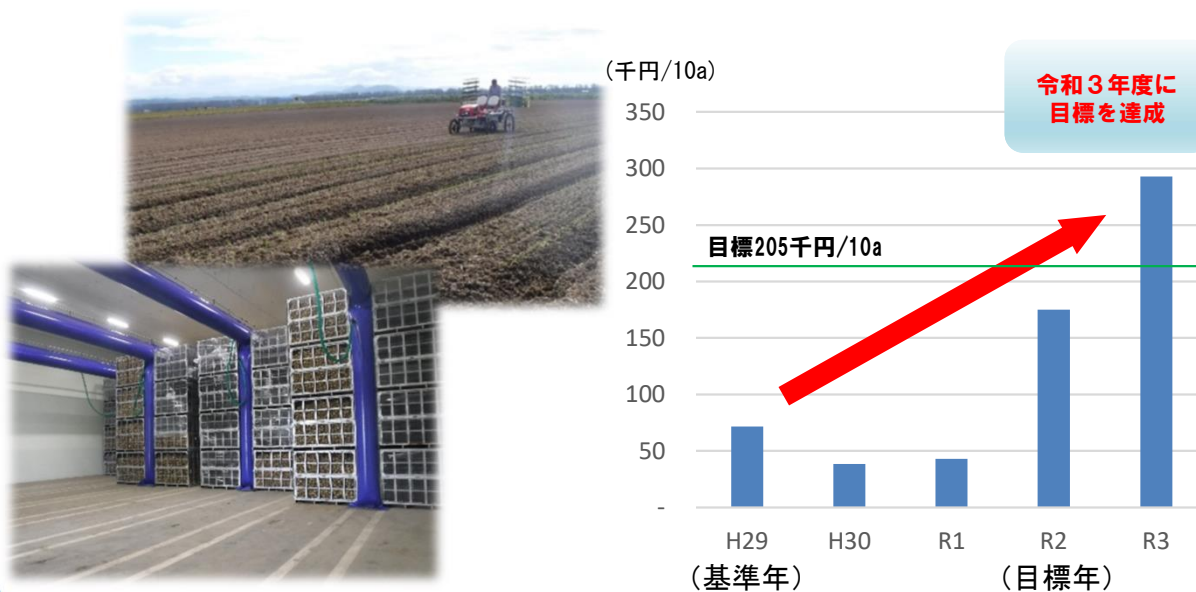
日本の食料生産基地として、今後の村の農業を支えて行くため、田畑複合経営を行う農業者が増えている。本事業において「タマネギ」の一大産地化を目指すことで、地域の農業所得増大を図る。

取組成果

【事業実施による効果】

タマネギの集出荷貯蔵施設(タマネギ乾燥・貯蔵・調整施設、生食用選果関連設備)の整備と播種機・収穫機器等の農業機械の導入・貸し出し
 ⇒安定的な品質確保、農業者の労力軽減による所得向上

単位面積当たりの販売額が約2.4倍アップ
 令和2年度実績 174,640円/10a
 (目標達成率 77.3%)



産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:美郷町地域農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

取組の概要 : 大豆産地の形成の推進
 対象品目 : 大豆 (産地面積: 447ha)
 主な取組主体 : 3 農業法人 (構成員 9 名)
 農業者 2 名
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 (単位面積当たり)
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
 乗用管理機、コンバイン等

ポイント

- 中心的な経営体への農地集積により、収益性の高い大豆団地を形成
- 高性能機械の導入による、適期栽培管理作業で、単収・品質の向上を図り、販売額の10%増加を実現

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状〉

販売額 12,825円/10a

- 大豆栽培を中心的な経営体へ集約を推進

〈目標:平成30年度〉

販売額 14,108円/10a

- 高性能機械の導入による適期作業等により産地の販売額を増加

推進体制

地域の関係者(美郷町、JA秋田おぼこ、秋田県仙北地域振興局)が連携し事業主体の取組を推進、大豆団地の形成をサポート

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 高性能機械の導入支援

〈県・市単独事業〉

- 未来にアタック農業夢プラン応援事業(県単独事業)に町でも協調助成するなど地域園芸に関する機械・施設等の導入支援を行っている。

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ① リース支援による初期投資の節減効果
- ② 乗用管理機導入により作業の効率化で規模拡大
- ③ 大型コンバイン導入で適期収穫による品質向上効果

【事業実施による間接効果】

担い手による作付面積が拡大し生産量が増加



**販売額が
35%増加
(達成率35%)**

